

技術・家庭科における主体的な学びを実現した授業（2年次）

Google Workspace for Education を活用して
中学校から高等学校へのプログラミング教育の接続（技術分野）
～プログラムによって問題を解決しよう～

家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて（家庭分野）

青柳 敬大 宮崎 茜

1. 研究主題設定の理由

これまでの学習指導要領の成果と課題を中央教育審議会答申では次のように明らかにしている。

技術分野においては、社会、環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し具体的な活用方法を考え出す力や、目的や条件に応じて設計したり、効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題があるとの指摘がある。また、社会の変化等に主体的に対応したり、より良い生活や持続可能な社会を構築したりするため、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用することが求められる。

家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。

現在の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

今日の学校教育では、時代が大きく変わる中、子供たちがこれから生きていく時代に向けて、そこで求められる資質・能力を明確にすることが重要となる。資質・能力は新学習指導要領では「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか」という三つの柱に沿って、育てるべき資質・能力を整理し、教育課程の枠組みを考える必要があるとされている。また、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」を求めている。この視点は、学びの過程としては一体として実現されるものであり、活動はあるが学びが欠けるような表面的な学びに陥らないように「深い学び」の視点は重要とされている。この深い学びに大きく関わるのは各教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。昨年度までの研究では、「見方・考え方」を働かせた学びや資質・能力を見取るための評価の工夫、教科等横断的な教育課程について研究を進めてきた。これまでの研究を生かしながら、本年度は「自ら追究し、未来を切り拓く生徒の育成」を研究主題とし、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りについて、検討していきたい。

【家庭分野】

2. これまでの研究経過

平成26年度～平成28年度 「工夫し創造する能力の深化」

1年次 「これからの生活を展望できる学習内容の工夫」(A 家族・家庭と子どもの成長)

2年次 「深く考え、生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」(C 衣生活・住生活と自立)

3年次 「深く考え、生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」(B 食生活と自立)

平成29年度～令和元年度 「技術・家庭科における「見方・考え方」を働かせた学び」

1年次 「主体的な学びを育成する授業の展開 ～RTDによる批判的思考を取り入れた授業～」

(D 身近な消費生活と環境)

2年次 「家庭科分野における資質・能力を育成する授業の展開

～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～」(A 家族・家庭と子どもの成長)

3年次 「家庭科分野における資質・能力を育成する授業の展開

～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～」(A 家族・家庭生活)

令和2年度～ 「技術・家庭科における主体的な学びを実現した授業」

1年次 「家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」(B 食生活と自立)

昨年度は、「家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」というテーマに基づき研究を行った。授業を公開することはできなかったが、研究会の先生方には動画視聴という形で見ていただき、オンラインでの研究会を行った。学びのプロセスモデルを組み込んだ学習過程、主体的な学びを実現する手立てについて検討された。

3. 研究の目的と手立て

本研究の目的は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための有効な手立てを検討し、工夫することである。また、無理のない指導計画を作成し、3年間を通して家庭科における資質・能力の育成を目指すものである。

手立てとして次の3つを考えている。

①生徒が学ぶ目的を自覚し、主体的に課題に取り組めるような題材を設定し、課題を設定する場面を工夫する <主体的>

生徒の興味関心を引くような題材を考えることだけではなく、生徒が自分の事として捉え、積極的に学びに向かうような、効果的な“題材を貫く課題”の設定の仕方についても検討したい。

②生活の営みに係る見方・考え方を軸とした学習を工夫する <深い学び>

見方・考え方を働かせることで、資質・能力の育成を図り、より深い学びの実現につなげたい。

③問題解決的な学習過程を設定する <主体的><対話的><深い学び>

生活や社会の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、計画、実践、評価・改善して、新たな課題の解決に向かうという一連の学習過程を重視した学習計画を工夫したい。

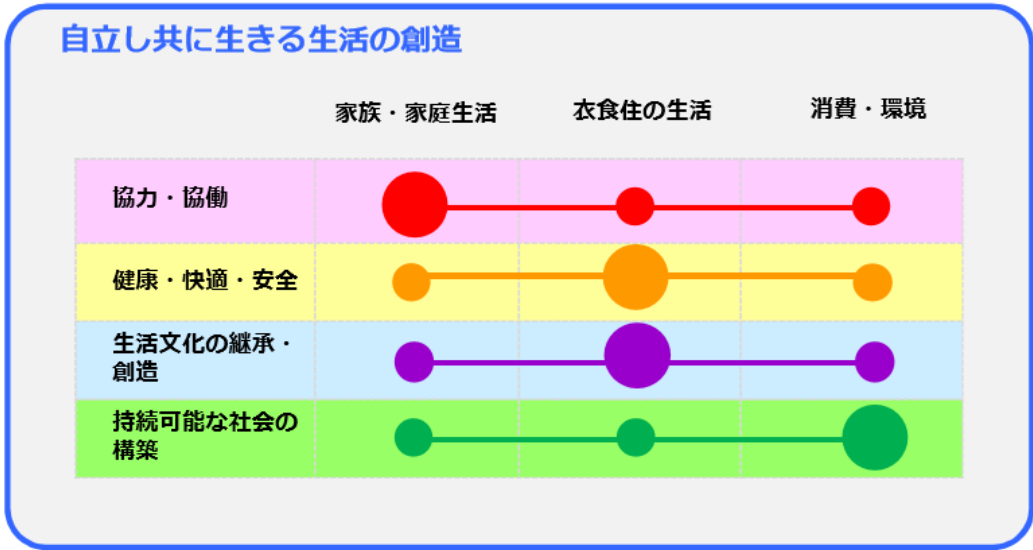
4. 技術・家庭科(家庭分野)における「見方・考え方」について

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭科編」では、技術・家庭科(家庭分野)における「見方・考え方」を以下のように示している。

「生活の営みに係る見方・考え方」

「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」

○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。



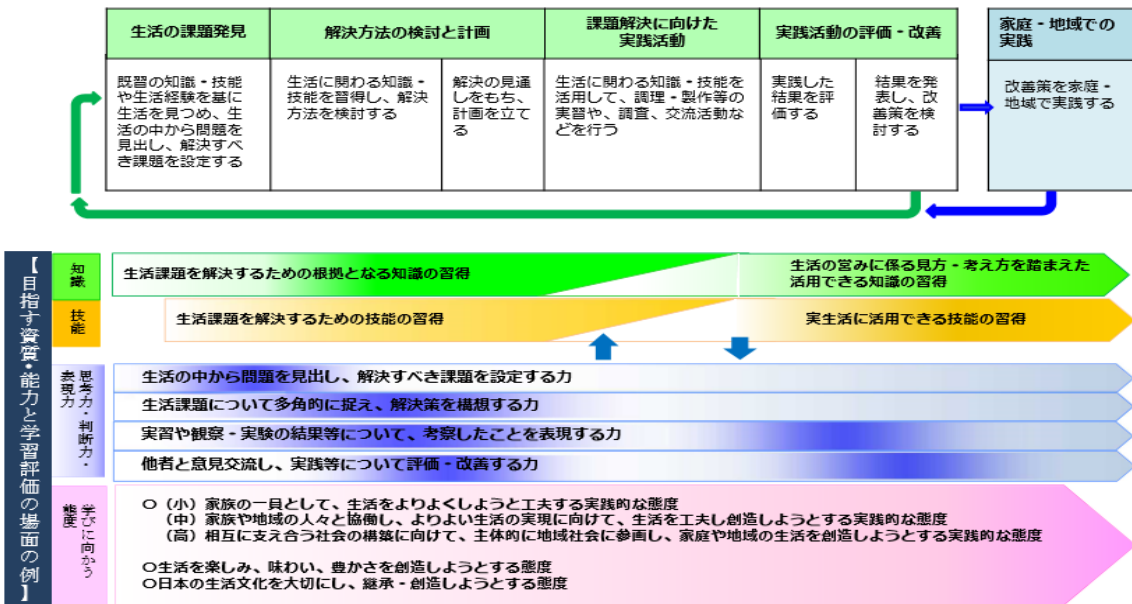
「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭科編」では、技術・家庭科（家庭分野）において育成をめざす資質・能力を以下のように整理し、示している。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

さらに、「技術・家庭科（家庭分野）で育成することをめざす資質・能力」は『「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考えられる。』とある。（以下、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程のイメージ）

家庭科、技術・家庭(家庭分野)の学習過程のイメージ

別添 11-5



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定される64ではないこと

このように、育成することを目指す資質・能力を育むためには知識や技能を身につけるだけでなく、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、習得した知識や技能を活用して課題の解決を図ることで学習を深めたり、よりよい生活の実現のために工夫し創造したりすることが求められている。

5. 全体研究とのかかわり

全体研究のテーマ『創造性に富んだ、未来を切り拓く生徒の育成～「主体的な学び」のプロセスモデル実現を目指して～』の実現のため、技術・家庭科での研究テーマを『技術・家庭科における主体的な学びを実現した授業』とし、家庭分野での研究テーマを『家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて』として研究を行っていく。

「自ら追究する」とは、自ら問を重ね、学び方を工夫しながら探究を続けることであり、新たな学習に対して意欲をもち、自己や他者、教材などとの対話を通して、学び考え続けることである。また、見方・考え方を働かせるとともに、既存の知識・技能を活用して、多面的・多角的に考えることである。そして、社会が直面する新たな課題について学び、新たな知や技術革新などを活用してよりよい解決を目指し、「未来を切り拓く」ことにつながっていくと考える。技術・家庭科（家庭分野）が目指す生徒につけたい力として、「これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度」を育成することから、全体研究のテーマに迫りたいと考える。

(1) 創造性

生徒の実態をもとに本校で考える「創造性」とは、「自ら課題を見出し、その解決に向かって、これまでに学んだことや新たな知、技術革新を結び付けて、新たな価値を創造する資質・能力」である。

家庭分野の学習において、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応する力を育成することが求められている。これらの社会の変化に関わる諸課題を解決したり、生徒自身の生活課題を解決したりするために、見方・考え方を働かせることによって身につけた資質・能力を活用する力を高めることから、創造性の育成を図りたい。

(2) 主体的な学びを実現するための手立て

家庭分野の研究に迫るための手立て①と③を基に、主体的な学びの実現について検討したい。③について、具体的には家庭科の一連の学習過程を「見付ける」「知る・深める」「見通す」「活かす・深める」「まとめる・振り返る」として、さらに附属中「主体的な学び」のプロセスモデルを組み込みたいと考えている。これを「学びの過程」として次に示す。

学習過程	生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善	
学びの過程	「見付ける」	「見通す」	「知る・深める」	「活かす・深める」	「まとめる・振り返る」	
	課題を見付ける	課題解決のための学習を見通す	課題解決のために必要な知識や技能を習得する	習得した知識・技能を活用する中で、さらに深める	実践を振り返り、新たな課題を見つける	
学習活動 (プロセスモデル)	既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する (目標設定)	解決の見通しをもち、計画を立てる (方略計画)	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する (遂行・振り返り・方略調整)	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う (遂行・振り返り・方略調整)	実践した結果を評価する (全体の振り返り)	結果を発表し、改善策を検討する (全体の振り返り)

(3) 主体的に学習に取り組む態度の見取り

附属中家庭分野「学びの過程」を実践する中で現れる「生徒の主体的な学び」を評価する。ここで行う主体的な学びの評価は、観点別評価や評定に用いる評価として扱う「主体的に学習に取り組む態度」の評価でもあるので、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」、技術・家庭科ならではの「実践しようとする態度」の3点に着目して評価を行っていく。具体的な評価の場面と評価資料について、次のように考えた。

主体的に学習に取り組む態度	評価の場面と評価資料	「おおむね満足できる」状況（B）の例
粘り強い取組を行おうとする側面	一連の「学びの過程」における生徒の取組状況	学習内容に関心をもち、あきらめずに取り組んでいる
自らの学習を調整しようとする側面	「知る・深める」「見通す」「活かす・深める」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述	授業の中でわかったことや他の生徒の意見を参考にして、自分の考えを振り返り、改善しようとしている
実践しようとする態度	「まとめる・振り返る」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述	生活を工夫し創造しようとしている

6. 題材について

(1) 題材名「衣服の選択と手入れ」 B(4)ア(ア)(イ)、イ

(2) 題材の目標

- ①衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解できるとともに、適切にできる。
- ②衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- ③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

(3) 題材について

私たちの衣生活は、社会のグローバル化等の変化に伴い、流行のアイテムを低価格で入手するファストファッションが主流になっており、インターネットなどの通信販売を利用することで、より手軽に購入できるようになった。そのような中で、ファッションへの関心が高まるとともに、販売時には安さが強調され、一つの服を適切に手入れして長く着る、という意識を持ちにくい社会になっている。その一方で、昨今ではSDGsの考えが広がり、丁寧な暮らし方が注目され、衣生活でも着心地を重視し、質の良い物を大切に着る、という生活スタイルが見直されてきている。ワークライフバランスの考え方も様々で、できるだけ家事に時間をかけなくても良いよう、洗濯代行のサービスなども増えているが、より多くの視点から自らの衣生活について考え、実践できる力を身につけさせることは、これからの社会を創っていく生徒を育む上でも意義のあることだと言える。

本題材は学習指導要領の内容B「(4)衣服の選択と手入れ」を基に設定した。自分の衣生活に関心をもたせるとともに、衣服を適切に選択することや、状態に応じた補修などの日常着の手入れについて学習できるようにする。また、これからの衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育て、次題材の「(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」や日常生活での実践につなげたい。

本校の生徒は、小学校までに衣服の主な働きと快適な着方、ボタン付け及び洗濯の仕方などの衣服の手入れ、生活を豊かにするための布を用いた製作について学習してきた。生徒への事前のアンケートを実施し、気温の変化に応じて衣服を着る工夫をしている 90.1%、ボタン付けができる 62%、靴下やTシャツ、体育着などを手洗いすることができる 67.6%、目的に応じて手縫いやミシン縫いができる 59.2%という結果だった。中学校では、内容A「家族・家庭の生活」の中で、家庭の仕事について聞いたときに「洗濯をする」と答えた生徒はごく少数だった。また、事前のアンケートから、「衣服を計画的に活用し、適切に手入れをする」という項目には、できない/していないと答えた生徒が 4.2%で、大体できる/ときどきしていると答えた生徒が 47.9%であり、できると自信をもって答えた生徒と半々だった。「衣服を選ぶときの視点」についてはサイズや値段、自分に合うか、という回答が多く、手入れと答えたのは 135人中5人であった。

これらのことから、衣服の選択においては、さらに多くの視点を持たせること、衣服の手入れにおいては、知識や技能の習得だけでなく、学んだ知識や技能を実生活で活かせるものにするのが重要だと考えられる。指導に当たっては、生徒に自分の生活を振り返らせながら、自分の生活の中から課題を見いださせ、課題意識をもって学習に取り組めるように工夫する。またパフォーマンス課題を設定することで、学習を生かす場面をより具体的にすることで実生活と結び付けながら学習を進められるようにし、身につけた知識や技能を生徒自身が使えるようにさせたい。学習毎に振り返りを書かせ、課題解決に向けて自らの学びを改善できるようにし、必要に応じてフィードバックをする。

(4) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 	<p>衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

(5) 全体研究との関わり

ア 「主体的な学び」のプロセスモデルを実現するための手立てについて

本校の考える「主体的な学び」とは、エンゲージメントが高められた姿である。それは、生徒が粘り強く学習に取り組み、自己調整しながら学ぶ姿である。文科省が示す、主体的に学習に取り組む態度の評価の尺度である、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」、家庭科独自の「実践しようとする態度」は、エンゲージメントの3つの側面すべてで見られる。これを基に考えられた附属中「主体的な学び」のプロセスモデルと家庭科の一連の学習過程を組み合わせて「学びの過程」として、家庭分野での主体的な学びの実現を目指したい。授業では、パフォーマンス課題を設定して生徒がより自分の生活をイメージして学習に取り組めるようにすることや、ICTを活用して生徒がより主体的に学習に取り組めるようにすることを実践したい。また、学習毎の振り返りシートを活用することで、粘り強く学習に取り組み、自己調整しながら学ぶ生徒の育成をめざしていく。振り返りシートで記入させる項目は次のように設定した。

(ア) よりよい衣生活のために必要だと思うこと（自己調整学習方略を促す問い）

(イ) 課題の解決に向けて（具体的な方略調整を表出させる問い）

①自分の生活と結び付けて考えたこと、②他の人から学んだこと、③新たに知りたかったこと

(ウ) 学習全体のまとめ（主体的な学びを表出させる問い）

振り返りシートのフィードバックは、「十分満足できる」状況(A)と判断できるものには“Good!”、「おおむね満足できる」状況(B)と判断できるものには“OK”とコメントをつけるようにした。また、「努力を要する」状況(C)と判断される生徒やAやBと判断できる生徒へも、必要に応じてコ

メントをフィードバックするようにする。なお、生徒へのフィードバックは、スタンプのみの場合とできていることを認めるようなコメントをする場合とでは、後者の方が生徒の学びに有効な結果が得られる（空尾, 2019）ことから、できる限りコメントでのフィードバックを試みる。

イ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

本題材では、主体的に学習に取り組む態度の評価の場面について、次のように位置付けた。

学習活動における具体的な評価規準	評価の場面と評価資料
評価規準① 粘り強い取組を行おうとする側面	一連の「学びの過程」における生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述
評価規準② 自らの学習を調整しようとする側面	「知る・活かす・深める」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述
評価規準③ 実践しようとする態度	「まとめる・振り返る」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述

評価規準①～③のそれぞれの評価を総括して題材の評価とする。

評価規準	「十分満足できる」 状況（A）の例	「おおむね満足できる」 状況（B）の例	「努力を要する」 状況（C）と判断される 生徒への手立て
①衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	衣服の選択と手入れに関心をもち、積極的に他者と関わりながら、課題の解決にあきらめずに取り組んでいる。	衣服の選択と手入れに関心をもち、課題の解決にあきらめずに取り組んでいる。	わからない点などを教科書やワークシートを見せて内容をつかませる等、適切な指導や助言を行う。
②衣服の選択と手入れについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	衣服の選択と手入れについて、授業の中でわかったことや他の生徒の意見を参考にして、課題解決に向けた一連の活動や自分の考えを振り返り、改善しようとしている。	衣服の選択と手入れについて、課題解決に向けた一連の活動や自分の考えを振り返り、改善しようとしている。	わからない点などを教科書やワークシートを見せて内容をつかませる等、適切な指導や助言を行う。
③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて工夫し創造し、実践しようとしている。	衣服の選択と手入れについて、複数の観点から工夫し創造し、実践しようとしている。	衣服の選択と手入れについて、工夫し創造し、実践しようとしている。	わからない点などを教科書やワークシートを見せて内容をつかませる等、適切な指導や助言を行う。

評価規準①②③の評価と題材の評価は次のように設定した。評価規準①②③の評価のA、B、Cを3点、2点、1点で換算し合計点を出す。

観点別評価	評価規準①②③の評価	合計点
A	AAA	9
	AAB	8
B	ABB	7
	ABC	6
	BBB	6
	BBC	5
C	BCC	4
	CCC	3

(6) 指導と評価の計画 (10 時間)

「学びの過程」	プロセスモデル	時	○学習目標 ・学習内容	評価規準・評価方法			小学校との関連
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
「見付ける」「見通す」	目標設定 方略計画	1	○衣生活について振り返り、自分の課題を見つけよう。 ・自分の衣生活を振り返り、課題を見付ける。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">題材全体を貫く課題『衣服の適切な選択と手入れができるようになろう！』</div>		題材を貫く課題 ①衣服の選択と手入れについて課題を見いだして課題を設定している。 <振り返りシート>	①衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 <行動観察> <振り返りシート>	暖かく快適に過ごす着方，すずしく快適に過ごす着方と手入れ，ソーイングはじめての一步
			○衣服の社会生活上の働きについて理解しよう。 ・衣服の社会生活上の働きについて理解する。	①衣服と社会生活との関わりについて理解している。 <定期テスト> ②目的に応じた着用について理解している。 <定期テスト>			
「知る・深める」	遂行 振り返り						

「知る・活かす・深める」	遂行 振り返り 方略調整	2	○目的に応じた着方を踏まえ、自分らしい着方を工夫しよう。 ・TPO を考えながらも、自分らしい着方を工夫したコーディネートを考える。	③個性を生かす着用について理解している。 ＜ワークシートの記述＞		
		3	○日本の伝統的な衣文化について学び、継承することの大切さに気付こう。 ・和服と洋服の違いを考え、浴衣に触れるなかで、和服の良さについて考える。	④衣服と社会生活との関わり(和服)について理解している。 ＜定期テスト＞ ＜ワークシートの記述＞		
		4 5 6 本時	○既制服の選択と購入のために必要な情報を知り、目的に応じた選択ができるようになるろう。 ・既制服を選ぶときの視点を考える。 ・既制服の表示の種類や意味を理解する。 ・衣服の選択の方法に関する適切なアドバイスを考える。	⑤衣服の適切な選択について理解している。 ＜ワークシートの記述＞ ⑥衣服の計画的な活用の必要性について理解している。 ＜ワークシートの記述＞ ⑦既制服の表示を読み取り、適切に選択している。 ＜ワークシートの記述＞ ＜定期テスト＞	課題1 ②衣服の選択についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。 ＜行動観察＞ ＜ワークシートの記述＞	②衣服の選択と手入れについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ＜行動観察＞ ＜振り返りシート＞
		7 8 9 10	○衣服の材料や状態に応じた手入れができるようになるろう。 ・洗濯、アイロン、ブラシかけ、補修などの衣服の手入れの方法を知る。	⑧衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 ＜実習の様子＞ ＜定期テスト＞	課題2 ③材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善している。 ＜実習の様子＞ ＜ワークシートの記述＞	

「まとめる・振り返る」	全体の振り返り	○衣服の適切な選択と手入れのために必要なことをまとめよう。 ・これまでの学習のまとめをする。		題材を貫く課題 ④衣服の選択と手入れについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。 <発表内容> <振り返りシート>	③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて工夫し創造し、実践しようとしている。 <振り返りシート>	
「活かす」	家庭実践	・自分や家族の衣服の手入れをする。				

(7) 本題材における身に付けさせたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
・衣服と社会生活との関わり 衣服の選択と着用、計画的な活用と手入れについての基礎的な理解と技能	・家族・家庭や地域における生活の中から衣生活について問題を見だし、課題をもって考え、解決する力	・衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度

7. 本時の授業

- (1) 日時 令和3年10月27日(水)
- (2) 場所 家庭科室
- (3) 学習目標 既製服の選択と購入のために必要な情報を知り、目的に応じた選択ができるようになる。
- (4) 評価方法

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	「十分満足できる」状況(A)の例	「おおむね満足できる」状況(B)の例	「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
衣服の選択の方法に関する適切なアドバイスを考える。	態①衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	観察による見取り	グループの友だちの意見を参考にしながら、課題を解決しようとする意欲的に取り組んでいる。	自分の意見を書き込み、課題解決に意欲的に取り組んでいる。	教科書 P.116, 117 を参考にさせる。
	思②衣服の選択についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を	観察による見取り・ワークシート	表示や品質等の選び方の視点を示すだけでなく、その理由や確認方法等をアドバイスすることができる。	表示や品質等の選び方の視点を示すことができる。	教科書 P.116～119 を参考にさせる。

	明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。		表示を読み取り、そこからわかる情報を伝えることができる。	表示を読み取り、意味を教えることができる。	教科書 P.116～119 を参考にさせる。
	知⑦既制服の表示を読み取り、適切に選択している。	ワークシート	既制服の表示を読み取り、そこからわかる情報などを判断して適切に選択できている。	既制服の表示を読み取り、適切に選択できている。	教科書 P.116, 117 を参考にさせる。
本時の学習内容のまとめをする。	態②衣服の選択と手入れについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	振り返りシート	わかったこと、改善点などを振り返りシートに記入しているとともに、具体的な生活事例と結び付けて考えられている。	わかったこと、改善点などを振り返りシートに記入している。	他の生徒の良い例を提示したり、課題解決のためのアドバイスを振り返りシートにコメントしたりする。

(5) 展開 (45分) (6/10時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5	○本時の目標を確認する。	・これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。	
展開 23	○衣服の選択の方法に関する適切なアドバイスを考えよう。 ・パフォーマンス課題に個人で取り組む。	パフォーマンス課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 去年着ていた服が小さくなってしまったため、友だちのマコトさんと一緒にこれからの時季に着る日常着の買いに来ました。予算は1着買える金額です。マコトさんは、価格とデザイン、好みを基準に3着まで絞り込んだようですが、その後どう選べば良いかわからず悩んでいます。どのように選べば良いか、わかりやすくアドバイスしてあげましょう。また、表示からわかる情報も伝えてあげましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時まで学んだ既制服の選択と購入のために必要な情報を振り返りながら取り組ませる。 ・ループリックを確認し、意識して取り組ませる。 	iPad
7	○衣服を選ぶ視点をもう一度考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで意見を共有する。 ・書いたものをお互いに共有する。 ・自分にはなかった視点やなるほどと思ったことなど、友だちの意見を取り入れさせる。 ・発表する人の資料を全体で共有する。 ・友だちの発表を聞き、さらに自分の考えを深めさせる。 	iPad
		<ul style="list-style-type: none"> ・以前の考えとどのようなことが変わったか振り返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○衣服を選ぶときに気をつけること。 サイズ 値段 似合うか 素材 季節 品質 着心地 洗濯方法 (多い順) ※学習前のアンケートより </div>	

まとめ 10	○本時の学習内容のまとめをする。 ・既制服を選択するときはどのようなことに注意すれば良いか発表する。 ・個人で振り返りシートを記入する。	・衣服を選ぶときの視点は、学習の始めと終わりでのどのように変わったのかを発表させる。 ・既制服を選択するときはどのようなことに気をつければよいか、まとめる。 ・振り返りシートに今日の振り返りを記入させる。	振り返りシート
-----------	--	--	---------

8. 成果と課題

(1) 「主体的な学び」のプロセスモデルを実現するための手立てについて

本研究では、附属中「主体的な学び」のプロセスモデルと家庭科の一連の学習過程を組み合わせ「学びの過程」として、家庭分野での主体的な学びの実現を目指した。授業では、パフォーマンス課題を設定したことや、ICTを活用したことで、生徒がより自分の生活をイメージして学習に取り組むことができ、既習事項について iPad を使って振り返りながら取り組む姿を見ることができた。ルーブリックを生徒に提示して学習を進めたので、それも生徒の学習意欲を高めるツールとなっていた。また、学習毎の振り返りシートを活用することで、生徒が自身の成長や変化を感じながら学習を進めることができた。

一方、課題としては、さらに適切な場面での ICT の活用について検討すること、その他の題材での「学びの過程」を活用した学習を研究していくことが挙げられる。また、ルーブリックの活用には賛否あるので、主体的な学びを実現する手立てとしてふさわしいのかということについても、今後も検討していきたい。

(2) 主体的に学習に取り組む態度の見取りについて

本研究では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」、技術・家庭科ならではの「実践しようとする態度」の3点に着目して評価を行った。それぞれを本題材では、主体的に学習に取り組む態度①②③として位置づけている。これらの評価を合わせて題材全体の主体的に学習に取り組む態度の評価をすることになる。詳しい評価については、実際の生徒の記述を例として示す。

評価についての課題点としては、生徒の観察による見取りで評価する際には、1時間の授業の中では評価しきれないことが考えられるため、数時間の計画の中で評価するようにすることや、毎時間の振り返りシートによる評価については、教員の負担軽減のためにも、より短時間で的確に評価できるような工夫を検討していくことが挙げられる。

<本時の主体的に学習に取り組む態度①の評価>

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	「十分満足できる」状況(A)の例	「おおむね満足できる」状況(B)の例	「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
衣服の選択の方法に関する適切なアドバイスを考える。	態①衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	観察による見取り	グループの友だちの意見を参考にしながら、課題を解決しようとする意欲的に取り組んでいる。	自分の意見を書き込み、課題解決に意欲的に取り組んでいる。	教科書 P.116,117 を参考にさせる。
<p>態① 授業中に見取りでは、ほぼ全員の生徒が B には該当していると判断した。その中でも A と評価できる生徒については、A 評価の例である「グループの友だちの意見を参考にしながら、課題を解決しようとする意欲的に取り組んでいる。」様子として、次のような記述から判断した。なお、この評価については、この題材を通して評価するように計画しているため、引き続き授業中に見取り、評価したい。</p>					

選び方のアドバイス

表示からわかる情報

試着し、肌触りや暖かさを確かめてみる

動きやすさ

cはアクリル100%だからかわきやすい

取り扱い表示をみて洗濯できるか確認する

Aは綿100%だからしなやかさがある

色落ちがある物か確認する

Bは毛100%だから暖かく蒸れにくい

アイロン可能か確認

cが1番手間がかからない
アイロン可
通常洗濯可能

サイズ確認

毛玉のできやすさを確認する

<本時の主体的に学習に取り組む態度②の評価>

本時の学習内容のまとめをする。	態②衣服の選択と手入れについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	振り返りシート	わかったこと、改善点などを振り返りシートに記入しているとともに、具体的な生活事例と結び付けて考えられている。	わかったこと、改善点などを振り返りシートに記入している。	他の生徒の良い例を提示したり、課題解決のためのアドバイスを振り返りシートにコメントしたりする。
-----------------	--	---------	--	------------------------------	---

態②

Aの評価

10/27	今までの授業内容をもとによい選択をしよう	A B C D ①決めた表示を学びこれから選ぶとき、大活用させて無駄な買い物による資源をなくすようなことをなくしていきたい。	good!
-------	----------------------	---	-------

10/27	表示をききみして、手入れのしやすさで服を選ぶ	A B C D ①ふたつ、自分の服を素材で選んだことがなかったため、素材の特性を知ることができて、おもしろかったです。②また、自分の持っている服の表示もたしかめようと思いました。	good!
-------	------------------------	--	-------

Bの評価

10/27	表示もしかりみて服を決めること	A B C D ①あまり表示を見て服を決めることがなかったが、たがで他の人からたが考えもふまえてこれから生活に生かしていきたいと思えた。	ok.
-------	-----------------	---	-----

10/27	衣服の性質について理解しよう。	A B C D ①服の言色号をしっかりと区別してできた。これからは買う時に確認したりしていきたいと思いた。具体的には?	ok.
-------	-----------------	--	-----

Cの評価へのコメント

日付	よりよい衣生活のために必要だと思うこと	課題の解決に向けて ①自分の生活と結び付けて考えたこと ②他の人から学んだこと ③新たに知りたと思ったこと 等	先生より
10/12	再利用(洋服)	A ^① BCD 洋服(再利用)など他の物にかたえい	OK. 再利用の方法には どんなものがあるの?
10/26		A ^① BCD セーターはかき? 家族のセーター! どうなの?	OK 今日の授業で印象的 だったことは何か?
10/27	着心地がよい服にしたい 着たいOK どの服にしたいか よいか?	A ^① BCD セーターのデザインを 提出しよう	OK
11/16		A ^① BCD 自分の生活と結び付けて 考えたこと	今日の学習は自分の生活と 結び付けられたか?

BからAへの変化

10/26	この服にしようと思った	A ^① BCD 「この服のしかたか、おもしろいデザイン 洋服を購入するときは何を気をつけているの?	OK!
10/27	いっしょにしようと思う	A ^① BCD 「僕らは、いっしょにしようと思ったら、性格 や価値観をみこころをわかって、自分 にあるものをかたえいと思っただい。	good!

<主体的に学習に取り組む態度③の評価>

学習のまとめ

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	「十分満足できる」状況(A)の例	「おおむね満足できる」状況(B)の例	「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
学習のまとめ	態③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて工夫し創造し、実践しようとしている。	振り返りシート	衣服の選択と手入れについて、複数の観点から工夫し創造し、実践しようとしている。	衣服の選択と手入れについて、工夫し創造し、実践しようとしている。	わからない点などを教科書やワークシートを見せて内容をつかませる等、適切な指導や助言を行う。

態③

Aの評価

☆学習のまとめ☆

○課題を解決するために、努力したことは何ですか。 衣服の洗濯は着方や手入れの仕方などを調べたり、着入たりにおは、列王の人の意見を書いた。	○学びを深めるために、工夫したことは何ですか。 列王の人と対話したり、シムボードボードでまとめたこと、そして自分の考えをまとめたこと、また他の列王の人の考えと比べて考えを深めること、自分の考えをまとめたこと。
○学習したことを、生活のどのような場面でどのように活かしていきたいですか。理由も書きましょう。 今日の単元で学習したことを洗たくをしたり、買物を生活に活かすこと、洗たくの表示や洗たくの仕方などがわかる色紙を作ることがあるので、洗たくの意識を高めたい。また、洗たくのボタンがよどみたりしてしまうので、洗たくの意識を高めたい。	

Bの評価

☆学習のまとめ☆

○課題を解決するために、努力したことは何ですか。 その日の授業でやった衣服の事について家で生かしたい。ボタン付けを家でやる事。	○学びを深めるために、工夫したことは何ですか。 実際に家でやってみたり、家の人に聞いてみたりした。
○学習したことを、生活のどのような場面でどのように活かしていきたいですか。理由も書きましょう。 衣服については、季節や気温にあった衣服を選んだり、T.P.Oを意識する。また、ボタンやスチッポ付けも今後にはかしたい。	

9. 引用・参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭科編』開隆堂，2018.
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校技術・家庭』東洋館出版社，2020.
- ・多々納道子・伊藤圭子『実践的指導力をつける家庭科教育法』大学教育出版，2018.
- ・西岡加名恵『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』K G Kジャーナル，開隆堂，2019.
- ・馬越幸子『平成27年度教員長期研修（前期）各研修内容』広島県立教育センター，2015.
- ・伊藤崇達『学業達成場面における自己効力感，原因帰属，学習方略の関係』教育心理科学研究，1996.
- ・ニルソン，L.B.（編著）美馬のゆり・伊藤崇達（監訳）『学生を自己調整学習者に育てる—アクティブラーニングのその先へ』北大路書房，2017.
- ・ジョン・ハッティ（著）山森光陽（翻訳）『教育の効果：メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化』図書文化社，2018.
- ・柰尾紘太郎『ふりかえりシートが理科の自己調整学習方略に及ぼす影響』高知工科大学，2019.
- ・R元年山梨大学教育学部附属中学校研究紀要，2019.